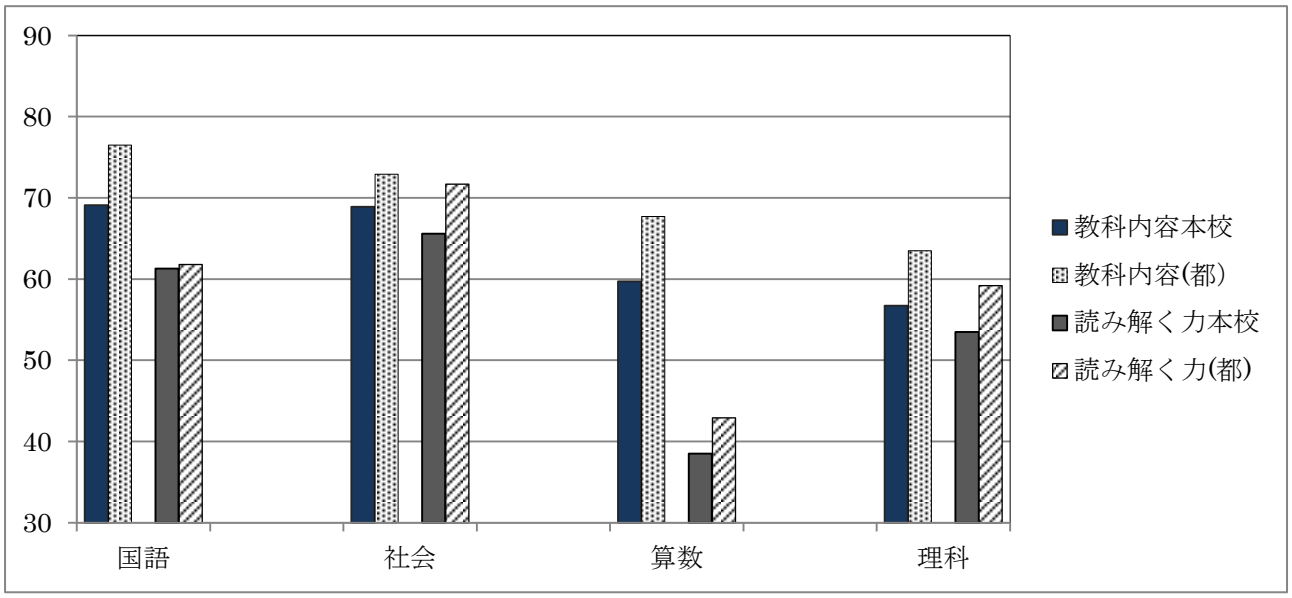
平成 28 年 10 月
江戸川区立第五葛西小学校

平成 28 年度　「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果考察



（5 年生・国語）

(1) 教科について

全体として 7.4 ポイント下回る結果となった。国語科の評価項目 4 項目のうち、5 ポイント以上下回った項目は「書く」、「言語についての知識・理解」、「読む」である。比較的、「話す・聞く」の能力は身に付いているといえる。この結果からまず推察できることは、児童が活字に触れる機会が少ないのではないか、ということである。「読む」ことに多く取り組むことがあれば、長文の問題にも抵抗が少なく臨める。また、語彙も増え、読解力も向上していくだろう。

次に、自分の思いや考えを書く機会が少ないことである。ただ単にたくさんか書かせればよいということではなく、児童が「書く」ことを楽しみ、自然と表現欲求が湧きあがるようにしたい。そうすることによって、自分が主張したいことを分かりやすく組み立てたり、他者が書いた文章を読み取ったりする力が向上してくるだろう。これらを踏まえて、以下の授業改善策を考えていく。

〈授業改善のポイント〉

文章に親しませることが肝要である。まずは、教科書やその他書籍など、他者が書いた文章を読ませ、自分がどう感じたか、1 部を空白にして、作者はどんな言葉を使っているかを予想させるなど、関心を高めさせる授業展開を行っていく。また、表現する能力を高めるために、まずは文法や誤字の指導に重きを置かず、自分の思いや感じた事を素直に言葉に表し、それを教師が認めていくようにする。さらに、どの観点にも言葉の力が大切となるので、家庭学習においても、諺や慣用句など語彙力を高める取り組みを継続していく。

⑵ 読み解く力について

東京都は読み解く力を次の 3 点と定義している。「必要な情報を正確に取り出す力」、「比較・関連付けて読み取る力」、「理解・解釈・推論して解決する力」。本校児童はこれらを総合すると、東京都の平均より、6.3 ポイント下回っている。ただし、上記の 3 点を個々に捉えると、「解決する力」は平均より、2.7 ポイント上回っている。情報をもとに自分の考えをもち、広げたり深めたりする能力はあるといえるが、必要な情報かどうか判断することや複数の情報を比較・関連させる力に課題があるとうかがえる。

〈授業改善のポイント〉

まず、何を問われているのか理解しなければ、必要な情報を取り出せないので、語彙を増やす活動に取り組むこと。そして何より毎授業の課題を明確に児童にもたせ、学習に取り組むようにすることである。さらに、課題解決のための資料を複数用意したり、自他の意見を比較できるようにしたりして、必要な情報を読み取る活動を増やす授業構成をしていく。

（5 年、社会科）

⑴教科について

正答率は、都の 72.9%に対して学年 68.9%と、4 ポイント下回っている。

この結果は、都の平均と比較すると下回っているが、国語や算数、理科の差と比べて最も小さい。

観点別の調査結果をみると、「関心・意欲・態度」「知識・理解」の 2 観点では、都の平均値まで迫っている。特に「知識・理解」では、都の 69.9%に対して学年は 68.9%と、平均値まで 1 ポイントと迫っている。また、「関心・意欲・態度」は、都の 91.3%に対して学年 90.1%と、1.2 ポイントにまで迫っている。一方、「思考・判断・表現」「技能」は、都の平均値まで 3.9～4.9 ポイントと、下回っている。この結果から、「思考・判断・表現」「技能」の力をより伸ばしていくことが、必要だと考えられる。

〈授業改善についてのポイント〉

社会的事象についての「思考・判断・表現」のなかで、身近な商品の産地や仕入れ先を調べる際に、日本地図や地図帳を活用し、47 都道府県と自分との生活の関連を地図上でも関連付けて捉え、自分の考えを文章で表せるようにしていく。

調べた内容を比較したり関係図に整理して表したりするなど、社会的事象相互の関連、社会的事象の意味や特色について考える活動を設定する。

⑵読み解く力について

正答率は、都の 71.7%に対して　学年 65.6%と、6.1 ポイント下回っている。

この結果は観点別でみても、「必要な情報を正確に取り出す力」「比較・関連付けて読み取る力」や「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」は、いずれも都の結果を下回っている。特に、「比較・関連付けて読み取る力」は、9.9 ポイント下回っており、改善が求められる。

〈授業改善についてのポイント〉
地図やグラフを見て、読み取った事実について、「何のために」（目的）と「どのように」（手段）の関係や「なぜ」（原因）と「その結果」の関係から説明する学習を意図的に設定する。また、調べた結果の共通点や因果関係などを表や関連図に整理し、複数の情報を、比較・関連付け・総合して考えさせる場を意図的に設定していく。

（５年、算数）

⑴教科について

正答率は、都の 67.7%に対して学年 59.7%と 6 ポイント下回っている。この結果は、教科の内容の全ての観点において、4～9 ポイント下回っている結果からきており、特に計算などの技能面や知識面での基礎基本の定着が必要なことを示している。

観点別にみると、「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」では、およそ 6 ポイント、「技能」では 8 ポイント、「知識・理解」では 9 ポイント下回っている。

〈授業改善についてのポイント〉
例年指摘されている問題解決能力の育成も重要であるが、まず技能面として計算力（繰り上がり・繰り下がりのたし算・ひき算・九九の繰り返しの学習など）の向上、用語・定義や定理（長方形の定理や定義など）を再度、押さえることが大切であり、授業のみではなく、朝学習や補習の時間を有効に活用していくことが必要である。また、問題場面を自分の力で図示したり、絵をかくなどして、答えを予想したり、見積もったりしてから問題解決にあたらせる学習を繰り返し行っていく必要もある。

⑵読み解く力について

正答率は、都の 42.9%に対して学年 38.5%とおよそ 4 ポイント下回っている。

観点別にみると、「読み解く力」では都の平均より 0.9 ポイントとやや下回っている程度であるが、「取り出す力」では 4 ポイント、「解決する力」では 7 ポイント下回っており、問題解決能力の育成が必要であることを示している。

〈授業改善についてのポイント〉
問題を読み解く力をつけるため、問題場面を自分の力で図示したり、絵をかくなどして、答えを予想したり、見積もったりしてから問題解決にあたらせる学習を繰り返し行っていく。また、多様な考え方の中から、問題に立ち戻って、問題の条件に合う考え方を話し合いで検討していく授業を多く取り入れていく。また、少人数指導の人数分けを児童の実態に合わせ、変化させたり、指導内容を工夫したりすることも必要である。

（５年、理科）

(1)　教科について

正答率は、都 63.5%　学年 56.7%となっており、都の平均と比べて 6.8 ポイント下回っている。４つの観点全てにおいて、都の平均を下回っている。その中でも「技能」の問題においては 10.4 ポイント、「思考・判断・表現」の問題においては 8.0 ポイントと大きく下回っている。課題が見られた問題は、メダカの雌雄を見分ける方法や磁石に付くものは何なのかという問題であった。

〈授業改善についてのポイント〉

児童に多くの実験を取り組ませ、実感を伴った理解をさせていく必要がある。その中で実験・観察の技能向上、また、結果から考察・結論に思考を進めていく力や考察したことを自分の言葉で説明する力を身に付けさせていく。

(2)　読み解く力について

正答率は、都 59.2%　学年 53.5%となっており、都の平均と比べて 5.7 ポイント下回っている。３つの力の全てにおいて、都の平均を下回っている。その中でも「取り出す力」の問題においては 8.7 ポイントと大きく下回っている。

〈授業改善についてのポイント〉

自分の予想に対して仮説を立てること。それを立証するためにはどのような実験をすればよいのかを考えること。これらの時間を十分に確保することが大切であると考える。その時間の中で、観察・実験などを計画的に行っていく条件制御の能力を育成していく。さらに、問題解決的な学習を充実させ、科学的な思考力・判断力を育成していく。